

# 防災だより



福井県立福井南特別支援学校

福井市南居町82 (0776) 36-7631

第 32 号

令和6年3月1日

## 土砂災害を想定した避難訓練



12月6日（水）に土砂災害を想定した避難訓練を行いました。「大雨が降り続き、土砂災害警戒情報が発表される可能性があります。」という放送を受けて、児童生徒は自分の教室に戻り、荷物の準備をしました。全校が一斉に避難を開始すると、階段で混み合っ危険なので、高等部棟は高等部1階の生徒から、小中棟は小高からというように、順番に避難をしました。

土砂災害の危険が迫ってきたときには、本校では中学部や音楽室がある棟の2階に垂直避難することになっています。本部からの放送を聞き、それぞれが決められた避難場所の教室に避難をしました。これまでは、感染症対策として避難場所の確認のみを行っていましたが、今年度は初めて、避難場所の教室に待機する訓練を行いました。全校児童生徒が避難を終え、点呼が完了するまでの間、ほとんどの児童生徒がそれぞれの避難場所で静かに待機することができました。



防災教育 あれこれ・・・ 【中学部より】

★「防災用品について知ろう」★ 中学部5・6・7組は防災用品や非常食について学びました。授業ではどんなときに使うのかを知り、実際に使ってみることを繰り返しました。生徒は防災用品に関心を持って、積極的に体験することができました。保温シートや体拭きシートなど怖がったり抵抗を示したりする生徒もいましたが、何度か体験を繰り返すうちに安心して使用できるようになりました。白米の非常食はレトルトカレーや焼き鳥缶などと一緒にとすると食べやすいことも分かりました。災害はいつやってくるか分かりません。繰り返し体験することで、防災用品や非常食への抵抗を減らして、実際に使用する場面ではスムーズに受け入れられることを願っています。

## 様々なパターンを想定した避難訓練 【寄宿舍より】

本校の寄宿舍では、説明週間、火災、地震、土砂災害の避難訓練を合わせて年間9回行っています。災害の種類や発生場所、発生時刻のパターンをいろいろ変えながら訓練を行っています。日によって舎生の活動場所や避難経路が違いため、状況に応じた避難を指導員の指示に従って行います。訓練を繰り返し行うことにより、災害発生時に慌てず落ち着いて行動することを目標としています。



災害時の避難方法などの説明



シェイクアウトの練習



避難の様子

## 能登半島地震から考えること



令和6年の元日、午後4時10分ごろ、能登地方を震源とする強い地震が発生し、最大震度7を観測しました。また日本海岸には地震発生からすぐ津波が押し寄せ、甚大な被害に見舞われました。ライフラインの復旧がなかなか進まず、寒い中で避難所生活を強いられる人たちが大勢いることをメディアから毎日目にしたことと思います。福井県でもあわら市で震度5強を観測し、津波警報発表に伴い沿岸部では避難指示が発令されました。元日は家族や親戚と一緒に自宅で過ごしていた人も多かったのではないのでしょうか。そこでどのような行動を取ったのでしょうか。

生活する上で配慮が必要な人たちにとって、ライフラインもままならない状況下の避難所生活は、支援体制に多くの課題があると言われていています。また慣れない環境で落ち着いて安全に過ごせるのかと家族が避難をためらう場合もあります。このような状況を目の当たりにする今、私たちはどのような備えが必要でしょうか。どのようにコミュニケーションをとったり意思表示をしたりするのでしょうか。想定できることについて最大限の準備をしておくことはとても大切です。（国立障害者リハビリセンターのHPをぜひ参考にしてください。）



学校ホームページURLはこちら

<http://www.fukuiminami-sh.ed.jp>

学校HPの「危機管理」の中にも、「防災だより」が掲載してありますので、ぜひご覧ください。